

令和7年度 学校経営計画

富山県立中央農業高等学校

1 学校教育目標

明るく豊かな社会の構成者及び農業の担い手にふさわしい人格の完成をめざし、個性の伸長と能力の開発に努め、創造性豊かで心身ともに健康で社会の進展に対応できる近代的な職業人を育成する。

2 学校の特色

本校は、富山市南部の山間地中腹に位置し、広大な敷地（34 万平方メートル）と豊かな自然環境を有している。県下唯一の農業科単独の全日制専門高校であり、寄宿舎を有する農業経営者育成高等学校（文部科学省指定）として、創校以来、本県農業教育の中核を担ってきた。

本科並びに農業特別専攻科が設置されており、本科には、生物生産科、園芸デザイン科、バイオ技術科の3学科がある。本科では1年次は全員が同一課程を履修し、2年次以降に生徒の興味・関心、進路希望や適性等により3学科に分かれて専門科目を履修し、農業の基礎基本から、スマート農業、SDGsといった農業の新しい在り方についても学んでいる。

また、寄宿舎教育（1年次1学期は義務入寮、1年次2学期より目的入寮）をとおして豊かな人間性を涵養するとともに、農業教育と連携し、より良い人間形成を目指している。

本校では、農業教育、学び直しも含めた普通教育、寄宿舎教育を三つの軸として、生徒一人ひとりの資質・能力の向上を図り、実社会で必要とされる力を身につけ、農業経営者や農業従事者を始めとする地域産業の担い手を社会に送り出してきた。

3 学校の現状と課題

本校は教育活動の多様化・活性化を図り、随時変化する社会の情勢に適応した学びや、生徒の学びの質を深めることを念頭に、専門教科と共通教科のバランスを考慮しながら、学び直しによる基礎学力の定着も図ってきた。また、学科・コースに関連する専門知識や技能を身に付けられる教育課程を編成するとともに、特別活動等を含め、生徒一人ひとりが主役になれる場を提供するよう努めてきた。

各教員の得意分野を伸ばし、それらを結集し、お互いに切磋琢磨できる集合経営体（本校独自の通称：八ヶ岳連峰型学校経営）により、今後も一人ひとりが変遷する社会に対応し、社会で求められる態度や行動を身に付け、社会性を高めることにより地域社会の未来を切り拓くことができる人材となるよう、組織的・計画的な教育活動とキャリア発達を促す継続的な支援を図っていく。

また、近年入学者の定員割れが続く現状から、中学生に選ばれる学校の在り方について教職員間や学校評議員等の意見を参考にしながら課題意識を高め、中学生のニーズ、社会のニーズを捉え、本校ならではの教育内容および方法を再構築しなければならない。一方では、本校の教育活動の動画制作やSNS等の活用により本校の魅力を積極的に発信し、PRしていく必要がある。

本校は、農業経営者育成高等学校として、一人でも多くの農業の担い手を輩出するという責務を果たすとともに、農業教育をとおして地域を担う職業人を育成するために、より実社会や実生活を反映した学習指導、生活指導、進路指導、特別活動指導となるよう日々指導法の改善・充実に努めることが肝要となる。今後も地域や関係機関・団体等との連携を図りながら、農業教育を基盤とした「魅力ある学校づくり」に邁進していきたい。